



デジタル大臣 衆議院議員

日本医科大学特任教授
千葉県医師会顧問

松本ひさし

MATSUMOTO Hisashi, MD, PhD, MBA

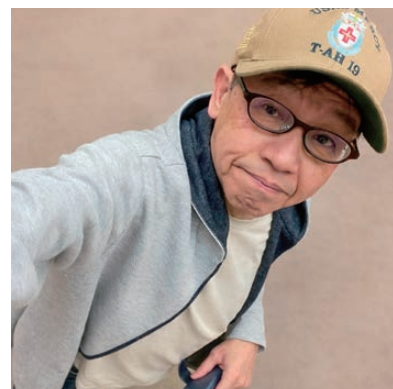
〈討議資料〉

衆議院小選挙区 千葉県第13区

我孫子市 鎌ケ谷市 印西市 白井市 富里市 栄町 酒々井町

■プロフィール

昭和37年石川県金沢市生まれ。昭和62年金沢大学医学部卒業。救急医・外傷外科医。医学博士。日本医科大学特任教授。千葉県医師会顧問。日本医科大学千葉北総病院副院長・救命救急センター長を歴任。ドクターヘリの普及に努め、この分野での第一人者となる。ドラマ「コード・ブルー」のほか多数の医療ドラマを監修。千葉県災害医療コーディネーターとして同県のコロナ対策を主導した。



これからスタバで読書

これからやることリスト

令和3年10月の第49回衆議院総選挙、初出馬の私はコロナ禍の選挙戦において「即戦力」を強調して戦いました。当選直後から自民党内では30数年間医師として働いた豊富な経験をもとに、医療政策のみにとどまらず、外交・安全保障においても、財政政策においても、思うところを遠慮することなく発言を繰り返し、党内での存在感を高めていきました。

その結果、初当選から2年後には、防衛大臣政務官の職に就くこととなり、特に自衛隊の戦傷医療のレベル向上のための体制を確立させる大きな実績を作りました。その功績が認められ、1年後には今度は外務大臣政務官として政府内に留まることになりました。各種の国際会議で我が国のプレゼンスを高める発言を行い、日本外交に大きな貢献ができたと思います。医師時代の国際学会参加の経験を活かすことができました。

そして、高市早苗内閣ではデジタル大臣・サイバー安全保障担当大臣として入閣しました。衆議院当選2期目の入閣は例のない早さです。まさに、皆さんに訴えた「即戦力」としての仕事を実践することができていると自負しています。

政治家は大臣になることがゴールではありません。これで目標は達成しただろう、などと言われたくありません。即戦力としての能力とこれまでの実績に対する自信を土台に、今後はもっと国の中心、官邸の中枢で、まさに「国の舵取り」をするべく事に臨みたいと考えています。

今回の松本ひさし通信では、これからやりたいことを簡単におさらいしておきたいと思います。

健康危機管理統括庁の設置

「危機管理のできる国に」と訴えた通り、新たな感染症対応の司令塔となる内閣感染症危機管理統括庁の設置を主導しました。この組織はまだ出来上がったばかりですが、私は高市総理からCBRNEテロ※対策を万全にするようにと指示を受けており、これに伴ってこの統括庁を感染症に限らず、オールハザードで国民の健康危機全般を管理統括できる組織(仮称・健康危機管理統括庁)に発展させることを検討しています。

※Chemical(化学)・Biological(生物)・Radiological(放射性物質)・Nuclear(核)・Explosive(爆発物)

ドクターヘリ特措法と臓器移植法の改正

ドクターヘリ事業は事業開始から25年が経過しました。当初の目標を超える57カ所で運航しており、多くの救命を成し遂げてきました。しかし、四半世紀が経ち、地域ごとの「必要性」や「配置」、事業全体の「質」など、事業の継続性を考えるければならない時期にきています。ドクターヘリ特別措置法を改正し、運航資金の確保や運航事業者の業界再編などを進めなければなりません。

自衛隊衛生能力の向上

私にも書きましたが、防衛有事において自衛官は我が国の領土・領海・領空を守るために戦うこととなります。当然無傷でいられる保証はありません。彼らの生命を守るのは自衛隊の医療を担当する衛生科です。自衛隊衛生の戦傷医療に対する体制整備や技術習得は、どの国会議員の誰でもない、外傷外科診療を極めてきた私にしかできないことです。防衛大臣政務官時代にはその基礎を作り上げました。今後はそれを米軍やNATO軍に勝るとも劣らないレベルにまで引き上げることを目指していきます。

救急医療基本法の制定

私の専門であった救急医療は、国民の健康と生命を守る「最後の砦」にあたる分野です。しかしながら、高齢化社会が進むにつれ救急患者の急増によってその体制は危機に瀕しています。「救急医療基本法」を制定することで、国民全体で救急医療の持続性と質を高めることを目指していきます。私の救急医としての最後の仕事です。



ジョージ・グラス駐日米国大使と



閣僚として本会議場で初登壇

医療DXの推進

デジタル大臣として最も優先的に取り組んでいるのが医療DXの推進です。マイナ保険証の利用登録件数が9,000万件を超えた一方で、診療所での電子カルテ導入率がまだ55%であるなど、最前線にある医療機関の電子カルテ化を進めなければなりません。実はそんなことは序の口で、医療機関同士や薬局との患者さんの情報共有の遅れも問題です。その先には、オンライン診療、AIによる診断や治療方針の決定、そして診療記録や検査結果、処方情報、健康データなどの大量の情報を活用することで、疾病研究、新薬開発、高市総理の言う「攻めの予防医療」などにも役立てることができそうです。何を以て医療DXが完成したと語ることは現段階ではできませんが、少しでも国民に医療DXの利便性を知ってもらいたいと思っています。

サイバー安全保障の強化

サイバー空間は目には見えません。国境というものもありません。しかし、この空間では絶えず攻撃と防御が繰り返されています。何への攻撃か？――発電所、銀行、鉄道、航空病院など私たちの生活を支えているインフラへの攻撃です。大阪急性期・総合医療センターやアサヒビールへのサイバー攻撃と云った方が分かりやすいかも知れません。



日本医師会と医療DXについて懇談

国、自治体、企業、個人、どのレベルであっても日本におけるサイバー空間を防御し続けなければなりません。私の担当するサイバー安全保障担当大臣とは、サイバー空間における防衛大臣に相当するものなのです。「サイバーセキュリティ基本法」や「サイバー対処能力強化法」に基づいてサイバー安全保障の強化を進めます。



街頭演説(白井市市役所前)



街頭演説(我孫子市緑郵便局前)

街頭演説と朝の駅立ち

令和3年10月の初当選後、これまでずっと選挙区内のあちこちの交差点で街頭演説を重ねてきました。その時々で政策の説明、自分の考える財政政策、安全保障や外交政策、憲法改正等々、お話しする内容は多岐にわたります。この活動こそが私の政治家としての起点になっています。

デジタル大臣就任に伴い警護官が付きましました。選挙区に帰りますと千葉県警さんや警護をしてくれています。警護上のルールもあっていつもどおりの場所で街頭演説がしにくくなったことは否めません。朝の駅頭の挨拶も同様です。それでも警察の方々のご協力を得ながら、許される範囲内で活動は減るかも知れませんが、皆さんの前には手を振っていただけると嬉しく思います。



街頭演説(印西市牧の原)



街頭演説(鎌ケ谷市市役所前)

私たちも松本尚さんを応援します！



内閣総理大臣
高市 早苗

松本ひさしさんは、初当選からの4年間、まさに「即戦力」として八面六臂の大活躍をされてきました。現在は高市内閣の閣僚として社会のデジタル化を推進し、サイバー安全保障の司令塔役となっています。また、これまでも責任ある積極財政を主張するなど財政政策にも明るく、将来にわたって大いに活躍して欲しい人材です。
皆さんも、松本さんへの応援をよろしくお願い申し上げます。



ジャーナリスト
櫻井 よしこ

松本ひさしさんは、当選回数がわずか2回でありながらデジタル大臣に指名されるなど、高市総理から大きな信頼を得ています。防衛大臣政務官時代には自衛隊の戦傷医療の能力を高める抜本的改革に取り組まれました。その後の外務大臣政務官としての仕事も外務省官僚からも高い評価を受けました。外交・安全保障の分野でもめざましい活躍をされている松本さんに、私も大いに期待をしています。



元内閣官房参与
(安倍晋三内閣)
本田 悦郎

松本先生は初当選以来、私のもとで財政金融政策を学び、日本経済の問題が消費や投資の慢性的不足にあることをすぐに理解し、積極的な財政政策と緩和的な金融政策で需要を拡大し、経済成長を実現することを目指した。気がつけば、責任ある積極財政を推進する議員連盟の共同代表にまでなっていた。
松本先生はわが国の経済・社会の病理と闘う名医となるだろう。



日本医科大学
千葉北総病院院長
別所 竜蔵

松本先生は、当院で20年以上にわたり救命救急センターのリーダーとして眼前の救急患者さんに立ち向かっておられました。何人もの重症外傷の患者さんをその決断力と技術で救ってこられました。政治の世界に移っても変わらぬ積極性で実績を残されています。今回の入閣には驚きましたが、何事にもプロフェッショナルの仕事をする松本先生なら納得がいきます。
日本医科大学も大いに応援をしています。

■ 経歴

昭和62年 金沢大学第2外科学教室入局
10年間にわたり外科医として勤務
平成12年 日本医科大学救急医学教室入局
以後救急医・外傷外科医として勤務
平成13年 ドクターヘリ事業開始
フライトドクターとして同事業を全国に普及する

平成20年 ドラマ「コード・ブルー」の医療監修
以降多数の医療ドラマの監修を務める
平成21年 NHK「プロフェッショナル仕事の流儀」に出演
平成26年 日本医科大学教授就任
平成29年 経営管理学修士(MBA)取得
(英国Anglia Ruskin大学)
令和2年 千葉県医師会理事就任
産経新聞「正論」執筆メンバーに加わる

令和3年 第49回衆議院議員総選挙当選
(千葉県第13区)
日本医科大学特任教授就任
令和5年 防衛大臣政務官 千葉県医師会顧問就任
令和6年 第50回衆議院議員総選挙当選
(千葉県第13区)
外務大臣政務官
令和7年 デジタル大臣・サイバー安全保障担当大臣

印西事務所

自由民主党千葉県
第十三選挙区支部

〒270-1345
千葉県印西市船尾1380-2
TEL.0476-29-5099
FAX.0476-85-4199

(発行) 松本尚政策会議

国会事務所

〒100-8981
東京都千代田区永田町2-2-1
衆議院第一議員会館1009号室
TEL.03-3508-7295
FAX.03-3508-3505

松本ひさしの活動は、ホームページやSNSで発信中！



ホームページ



X



Facebook



YouTube



LINE
公式アカウント

松本ひさし 検索

matsumotohisashi.com